

令和 5 年度 男女共同参画意識に関するアンケート結果について

1. 目的

第 4 次石狩市男女共同参画計画の進捗状況および男女共同参画に関する市民意識を把握し、本市の男女共同参画推進事業に活用するため実施

2. 対象者の抽出方法

市内に居住する 20 歳以上の男女 1,000 人

- 1 地域別割合：旧石狩市 900 人、厚田区 60 人、浜益区 40 人
- 2 年代別割合：20 代、30 代、40 代、50 代、60 代以降を概ね均等
- 3 男女別割合：各世代を均等

3. 期間及び方法

期間：令和 5 年 8 月 31 日（木）～9 月 21 日（木）

方法：対象者にアンケート書類一式を郵送、返信用封筒により回収 ※Web 回答も受付

4. 回収状況

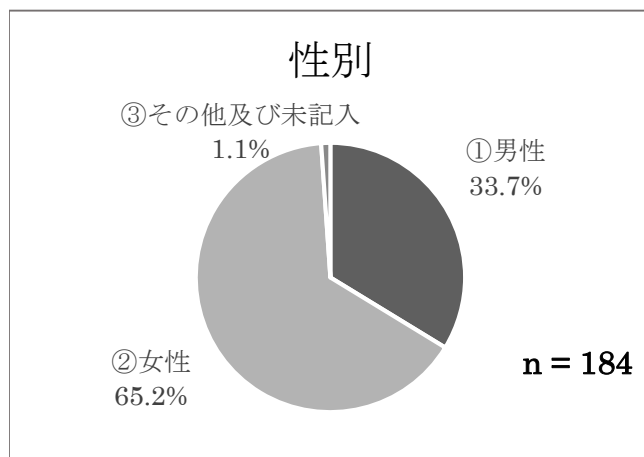
回収件数は 184 件で回収率は 18.4%

1 性別

男性は 12.4%、女性は 24.0%の回収率となっています。

項目	性別			合計
	① 男性	② 女性	③ その他及び未記入	
配布数(件)	500	500	—	1,000
回収数(件)	62	120	2	184
回収率(%)	12.4	24.0	—	18.4
回収数における性別割合(%)	33.7	65.2	1.1	100.0

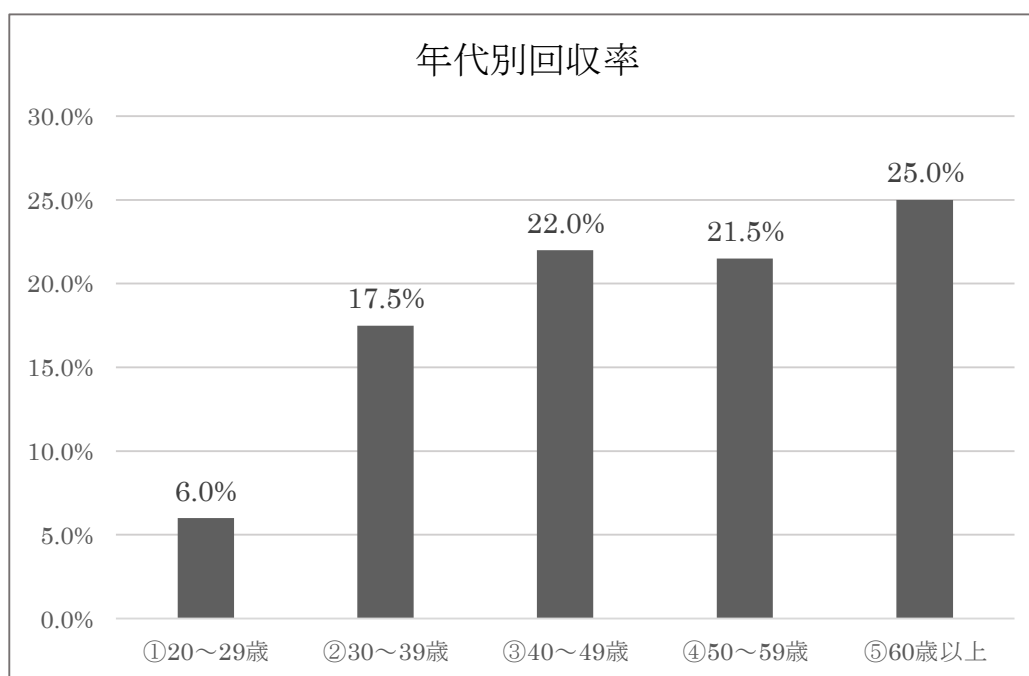
※LGBT などの性的マイノリティの人に配慮し、性別選択は必須項目としていません



2 年齢

⑤60歳以上が25.0%と最も高く、次いで③40～49歳の22.0%、④50～59歳の21.5%と、年齢が高い人からの回収率が高い一方で、①20～29歳が10%を下回っています。

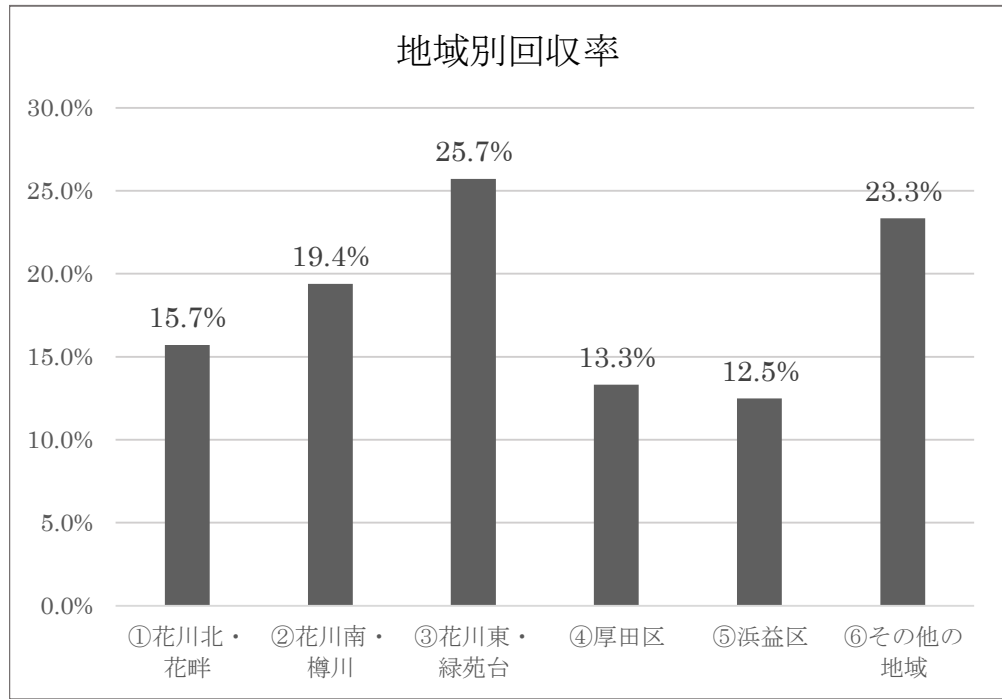
項目 \ 年齢		①	②	③	④	⑤	⑥	合計
		20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	未記入	
配布数(件)		200	200	200	200	200	—	1,000
回収数(件)	男性	4	12	12	17	17	—	62
	女性	8	23	31	26	32	—	120
	その他	0	0	1	0	0	—	1
	未記入	0	0	0	0	1	—	1
	合計	12	35	44	43	50	—	184
回収率(%)		6.0	17.5	22.0	21.5	25.0	—	18.4



3 お住まい

③花川東・緑苑台が25.7%、⑥その他の地域が23.3%となっているほかは、20%以下の回収率となっています。

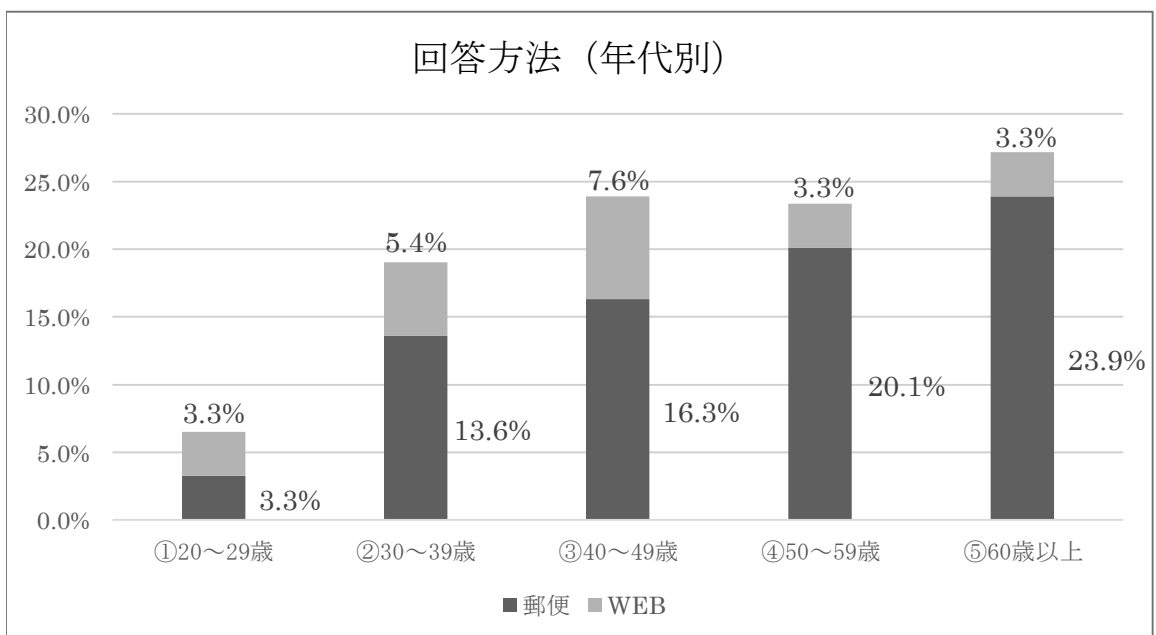
項目 \ 地域		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	合計
		花川北・花畔	花川南・樽川	花川東・緑苑台	厚田区	浜益区	その他の地域	未記入	
配布数(件)		280	490	70	60	40	60	—	1,000
回収数(件)		44	95	18	8	5	14	—	184
回収率(%)		15.7	19.4	25.7	13.3	12.5	23.3	—	18.4



4 回答方法

郵便で回答した人は142人、Webで回答した人は42人となっています。

項目	① 20～29歳		② 30～39歳		③ 40～49歳		④ 50～59歳		⑤ 60歳以上		⑥ その他及び未記入		合計
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
郵便	6人	3.3%	25人	13.6%	30人	16.3%	37人	20.0%	44人	23.9%	0人	0.0%	142人
Web	6人	3.3%	10人	5.4%	14人	7.6%	6人	3.3%	6人	3.3%	0人	0.0%	42人
合計	12人	6.6%	35人	19.0%	44人	23.9%	43人	23.3%	50人	27.2%	0人	0.0%	184人



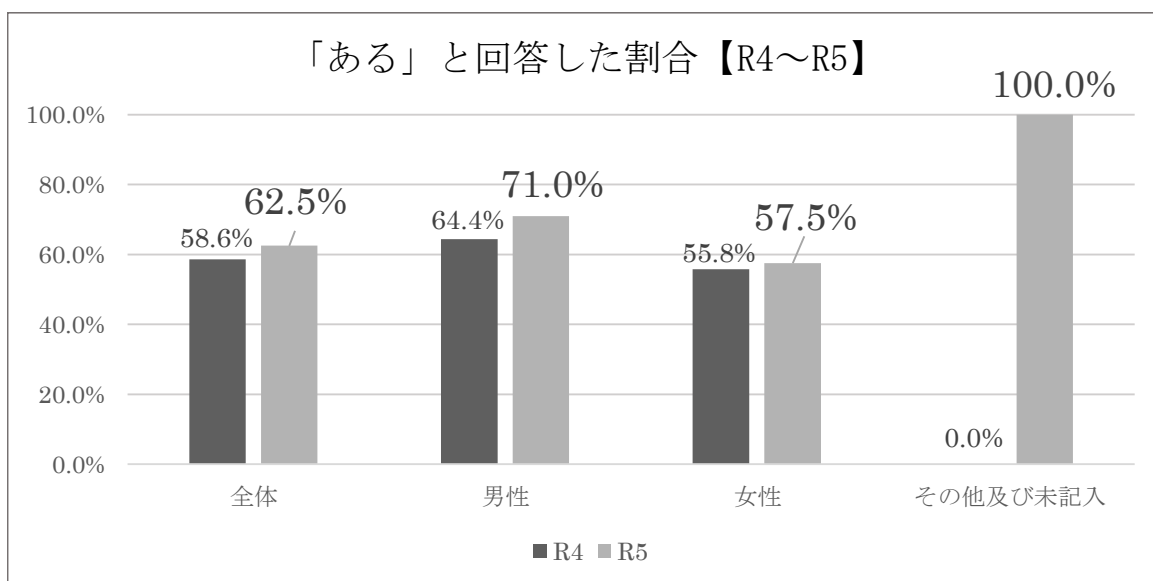
5. 分析結果

問1：あなたは、「男女共同参画社会」という言葉を見たり聞いたりしたことはありますか？

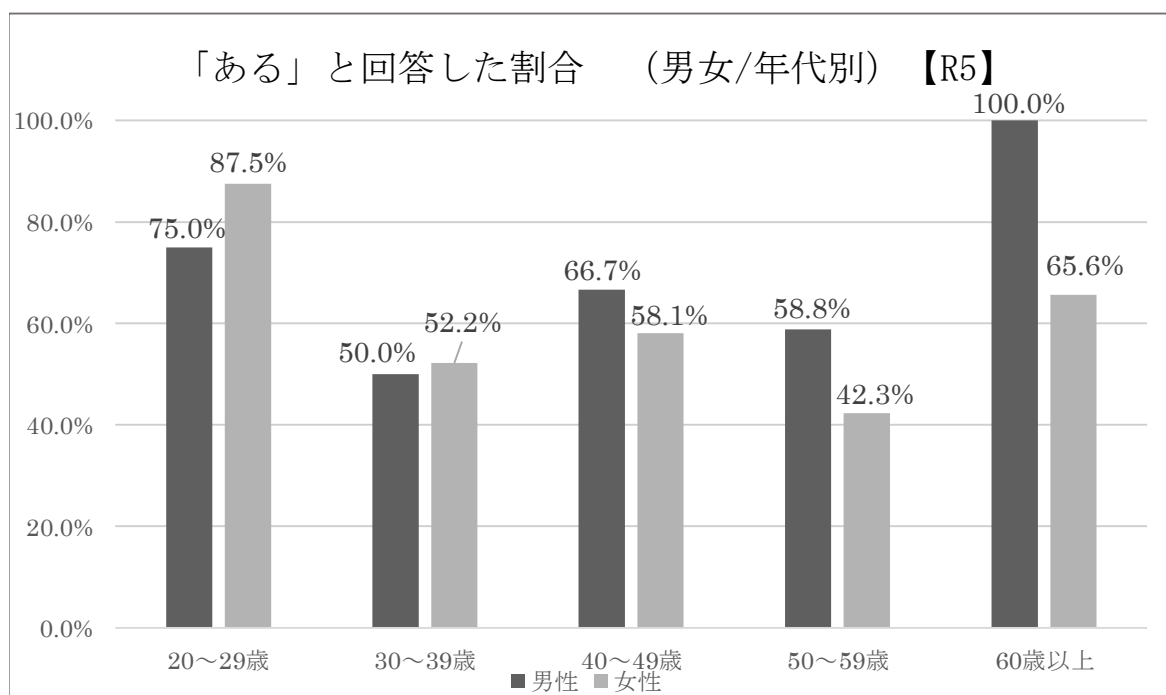
① ある ② ない

※以下 R4：n=203（男性 n=73、女性 n=129、その他及び未記入 n=1）

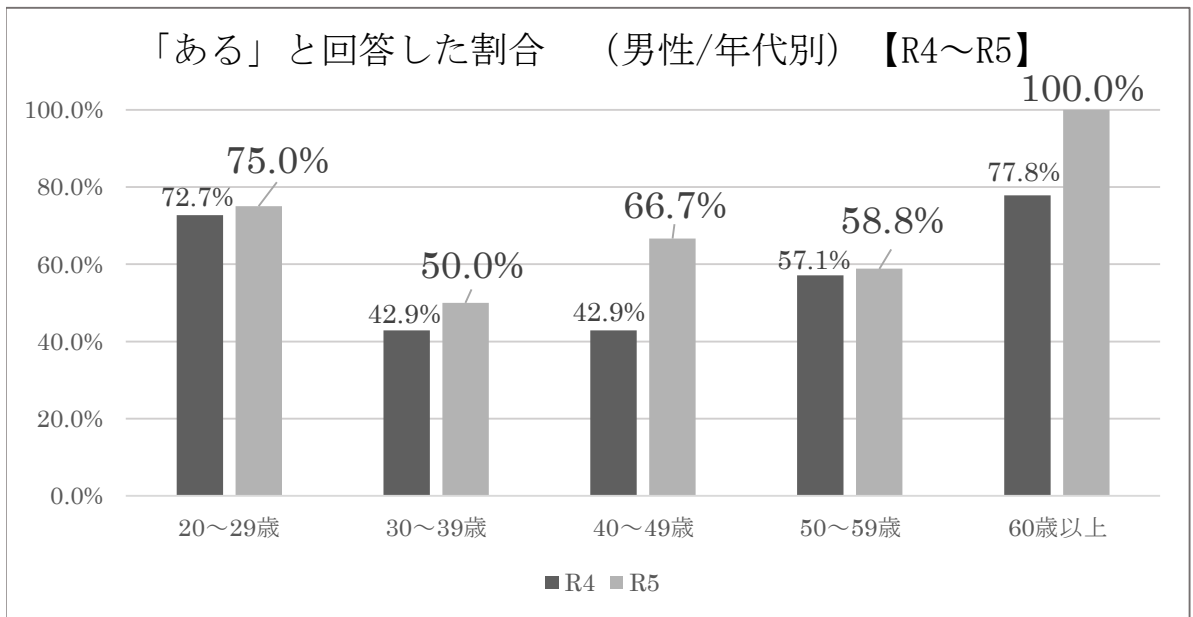
R5：n=184（男性 n=62、女性 n=120、その他及び未記入 n=2）



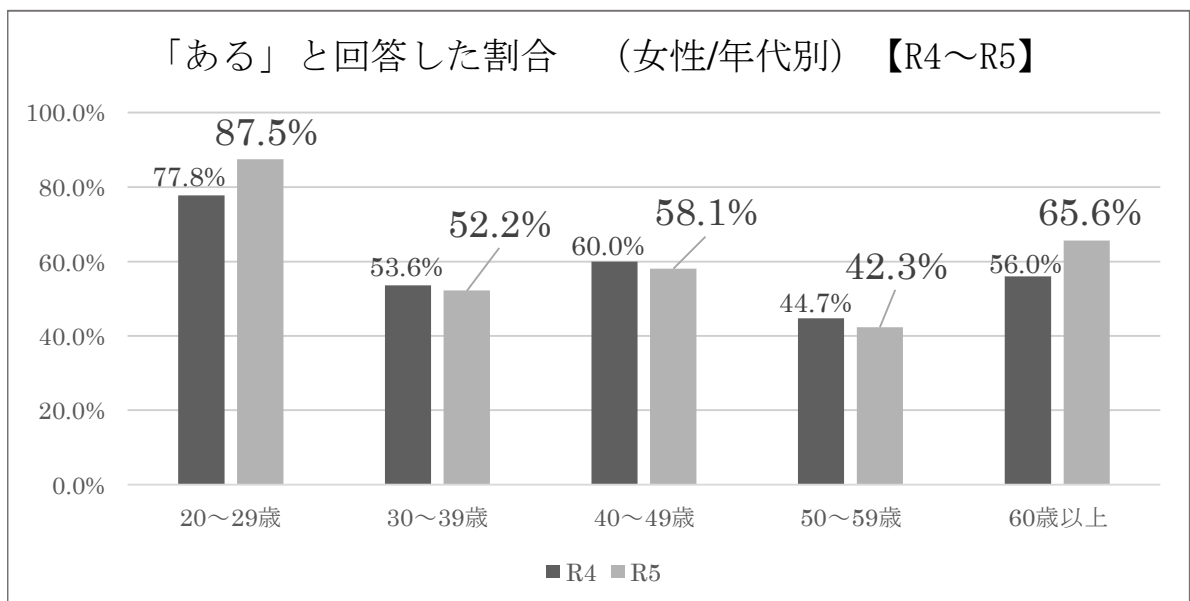
- ・約 60%の人が見たり聞いたりしたことが「ある」と回答しており、「男女共同参画社会」という用語の周知度は前年度を上回っています。



- ・男性は20～29歳と60歳以上が70%以上と高く、その他の年代でも50%以上の人が認識しています。女性は20～29歳が80%以上と高い一方、50～59歳が42.3%と低くなっています。



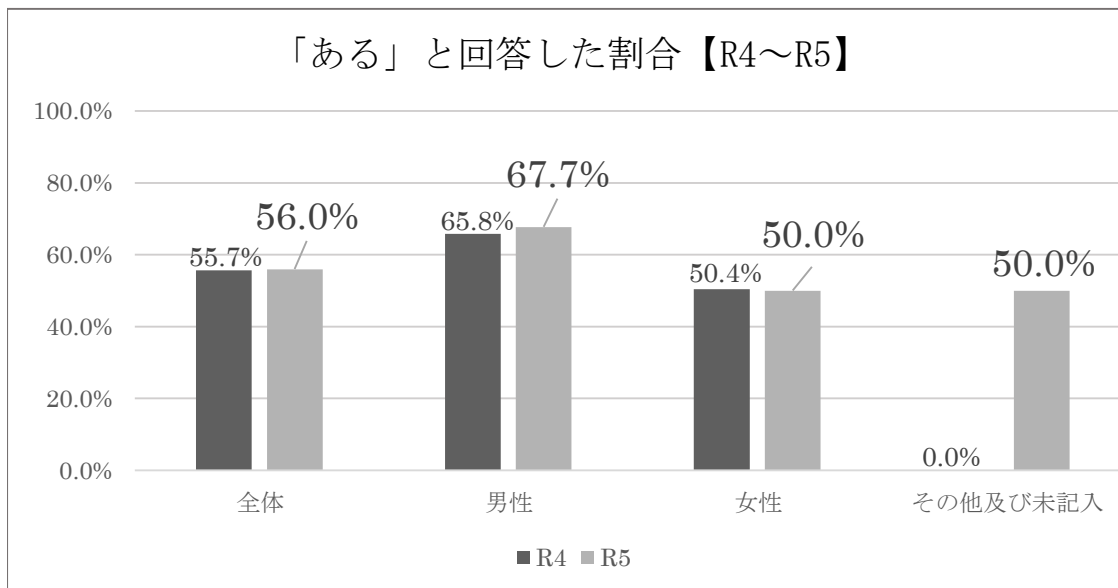
- 全ての年代で前年度を上回っています。特に 20～29 歳と 60 歳以上は 75%以上の方が認識しています。



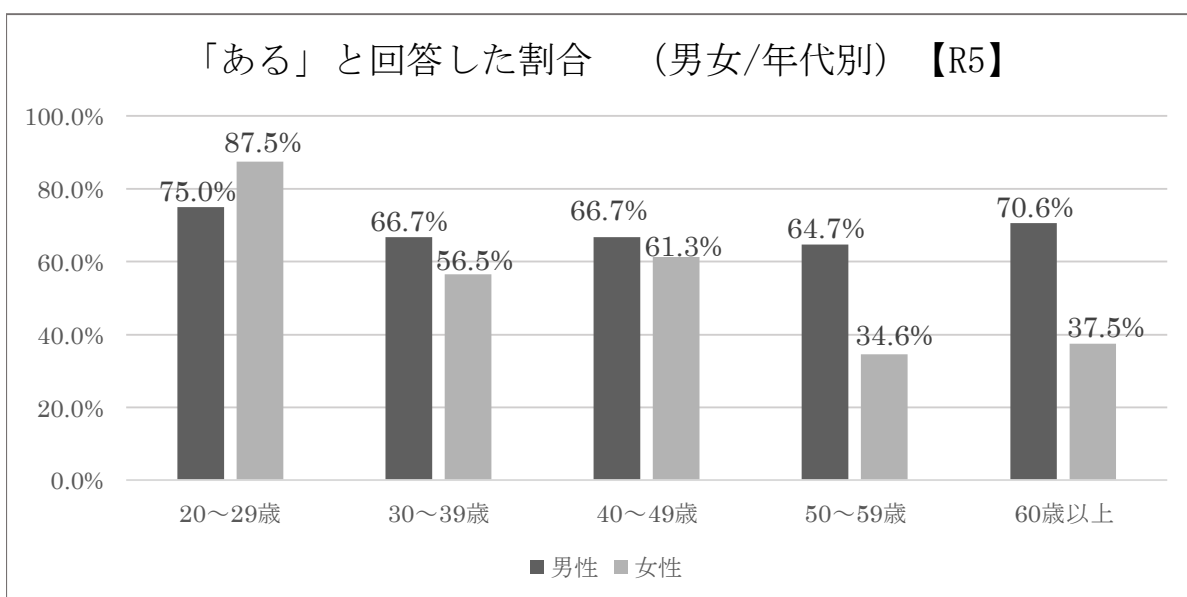
- 20～29 歳と 60 歳以上は前年度を上回っていますが、それ以外の年代は前年度を下回っています。

問 2：あなたは、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」という言葉を見たり聞いたりしたことはありますか？

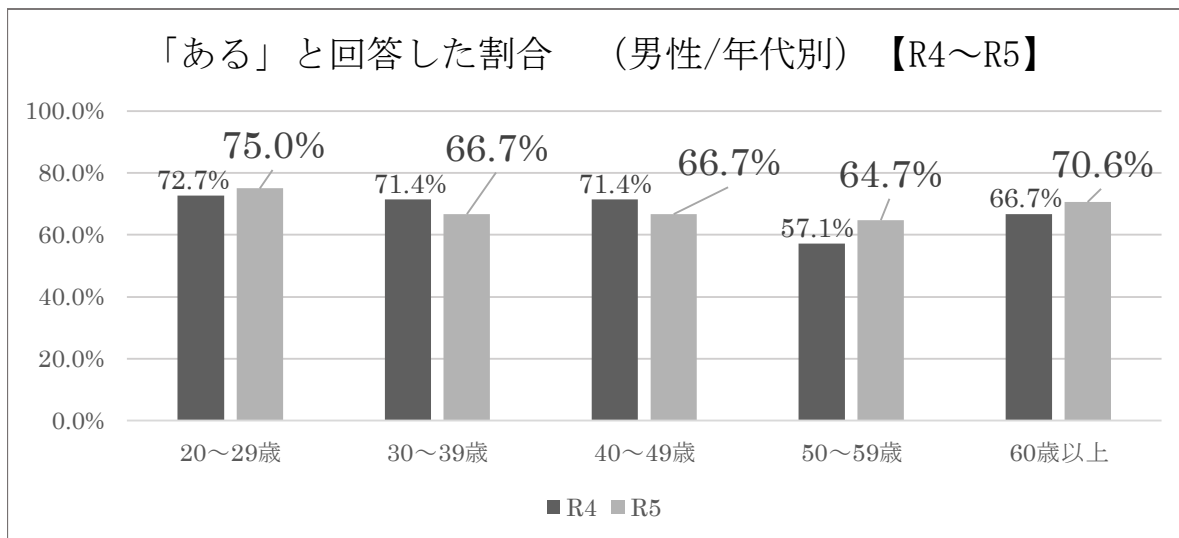
- ① ある ② ない



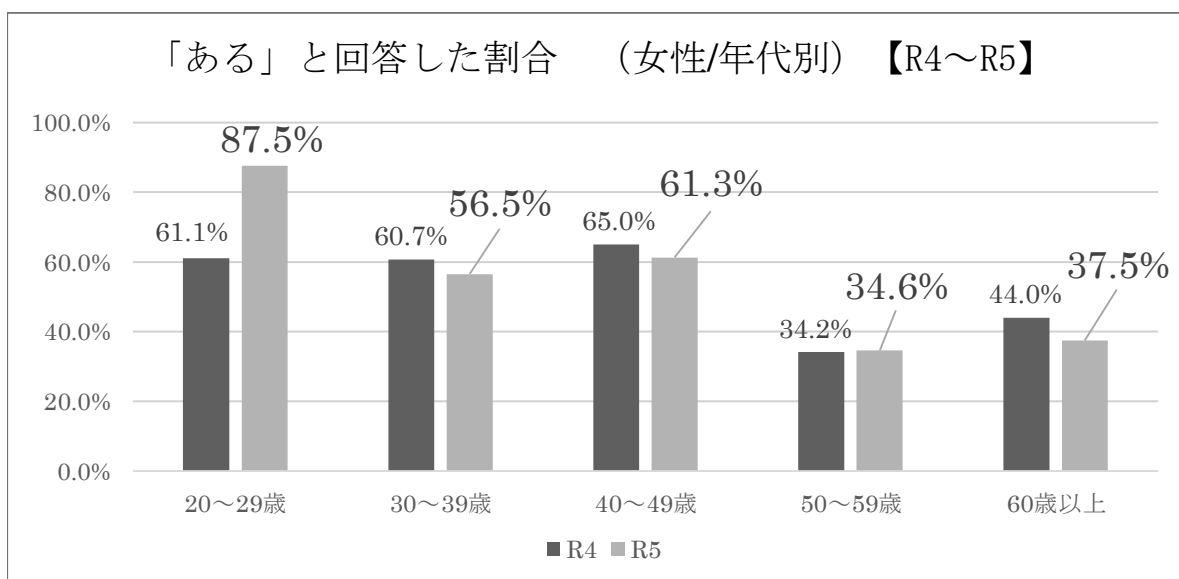
- ・見たり聞いたりしたことが「ある」と回答した人の割合は、その他及び未記入以外、全体的に横ばいとなりました。また、男性の認識している割合は、女性の認識している割合よりも高くなっています。



- ・男性は全ての年代で60%以上の方が認識しており、20～29歳、60歳以上は70%以上と高くなっています。女性は50～59歳と60歳以上が40%以下と低い一方、20～29歳と40～49歳は60%以上と高くなっています。

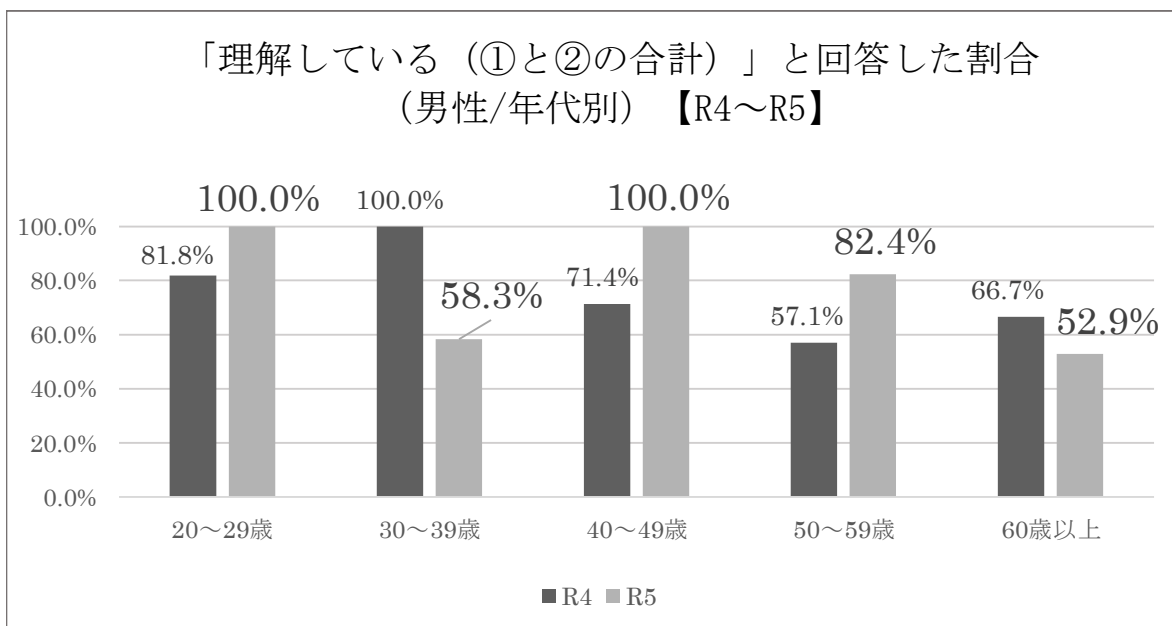


・全ての年代で60%以上となっています。

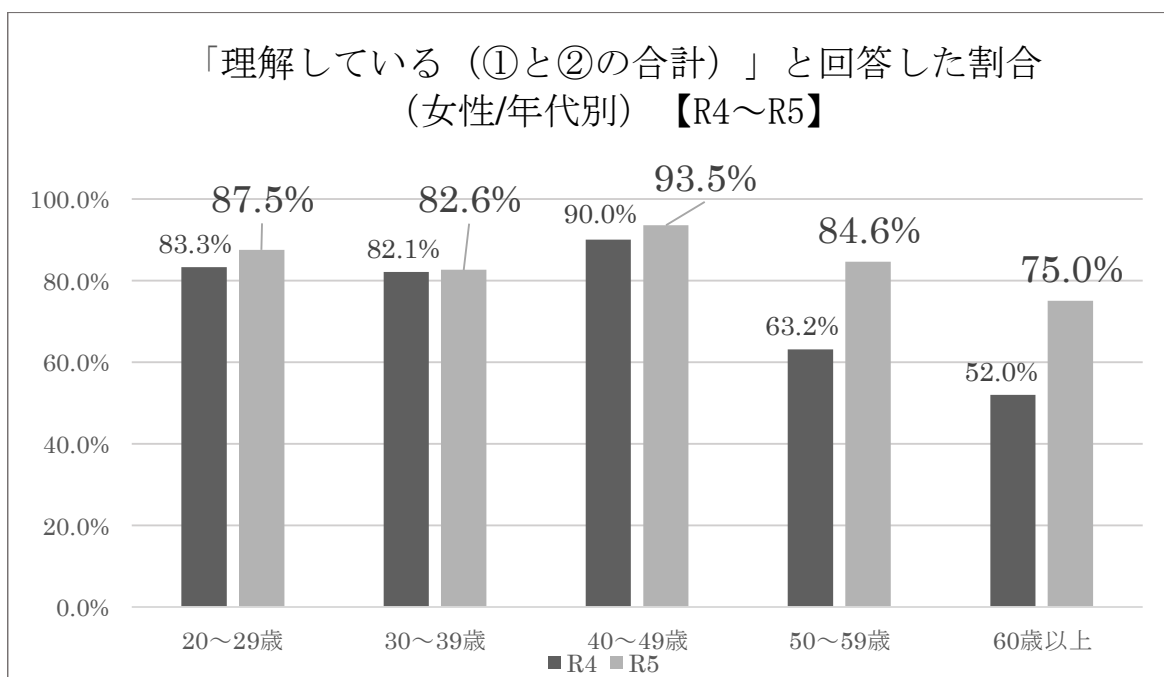


・20～29歳と50～59歳を除いて、前年度に比べて低くなっています。

※問3「あなたがワーク・ライフ・バランスを実現するために心掛けていることや、実践したらよいと思うことがありましたらご自由にお書きください」については13ページに記載しています。



・ 30～39歳と60歳以上以外は、前年度を上回っています。



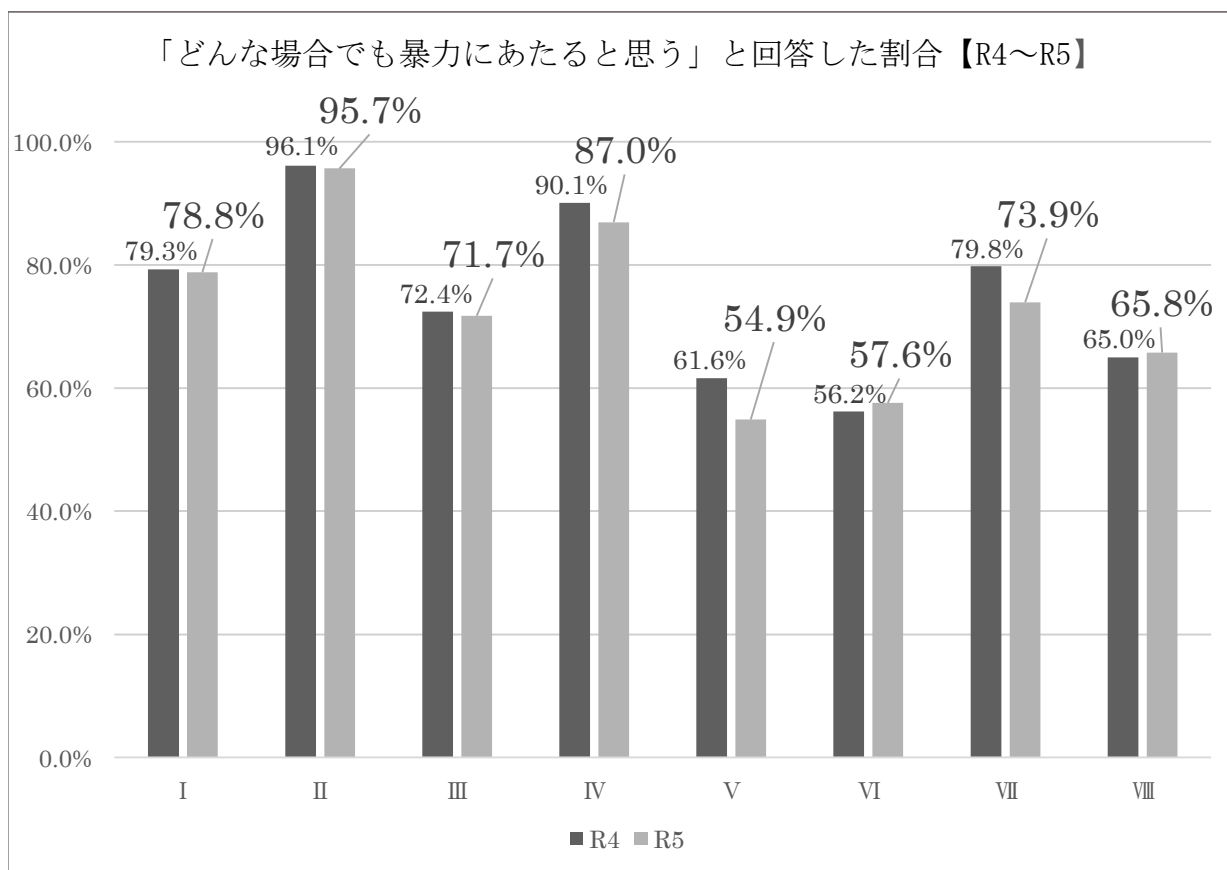
・ 50～59歳と60歳以上で前年度を上回っており、それ以外は横ばいとなっています。

問 5：あなたは、次のようなことが夫婦（恋人）間で行われた場合、それを暴力だと思いますか？
 （各項目について、あなたの考えに近い番号をいずれか 1 つ選んで○をつけてください）

※「夫婦」には婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦も含まれます

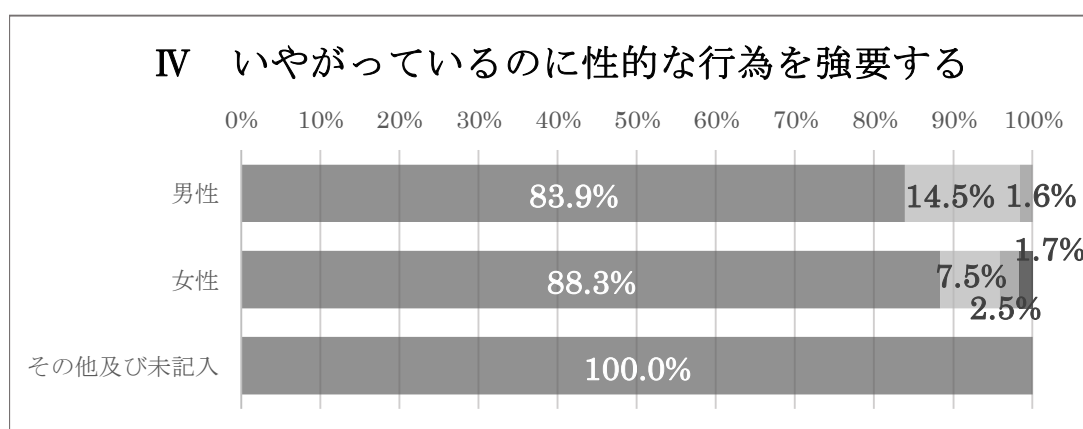
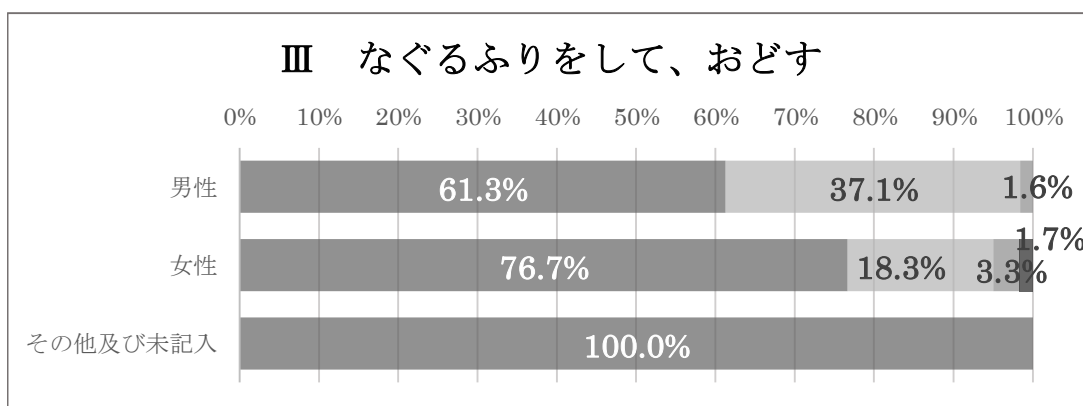
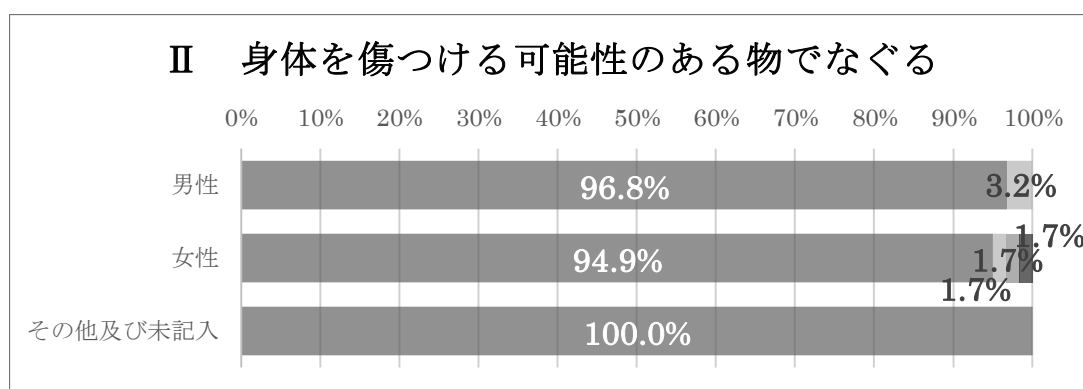
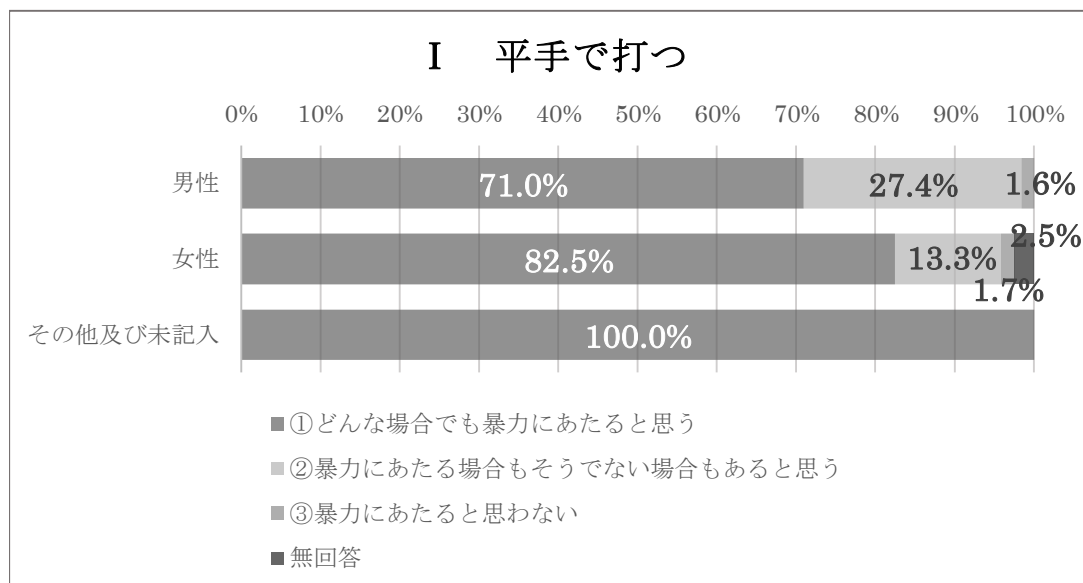
- ① どんな場合でも暴力にあたると思う
- ② 暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う
- ③ 暴力にあたるとは思わない

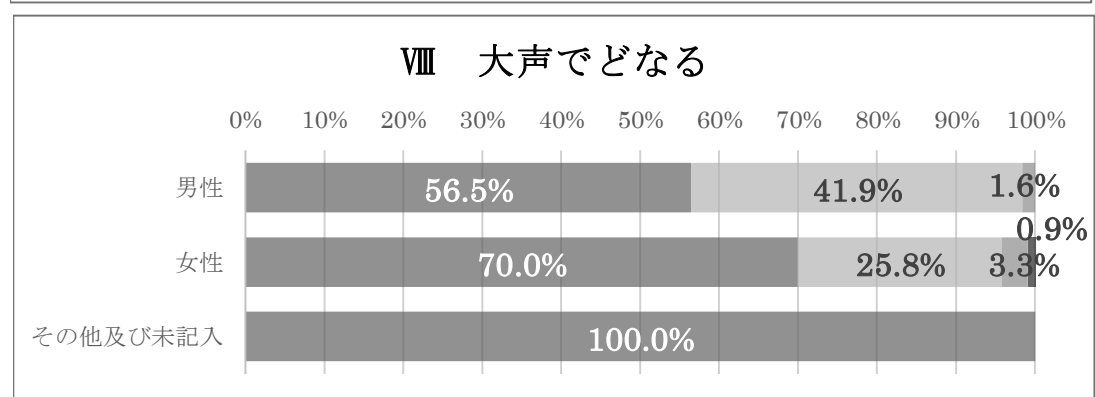
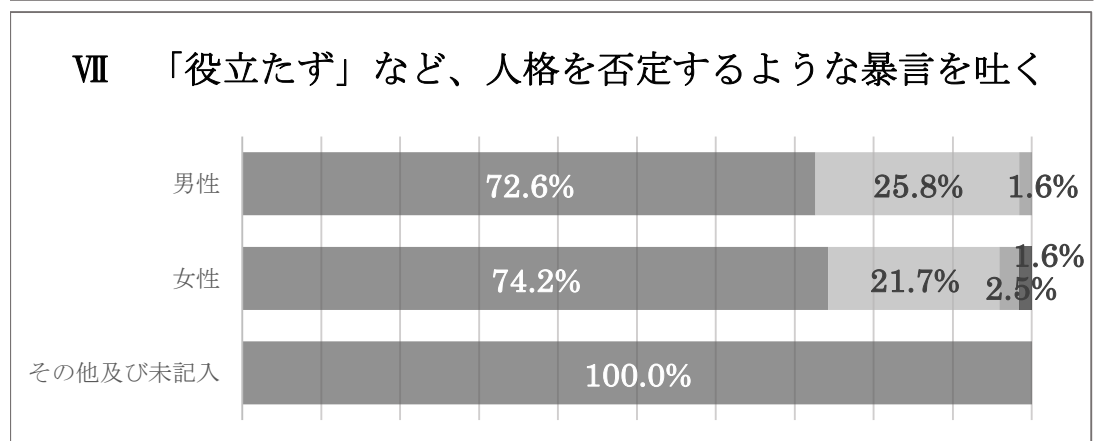
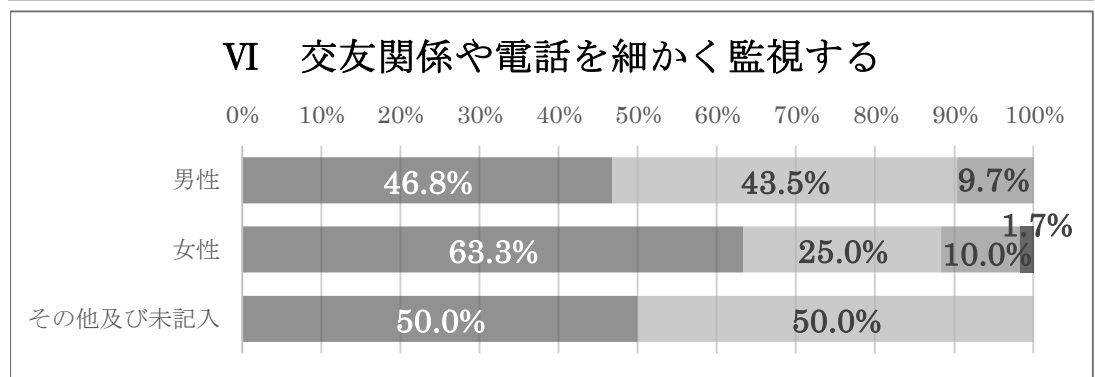
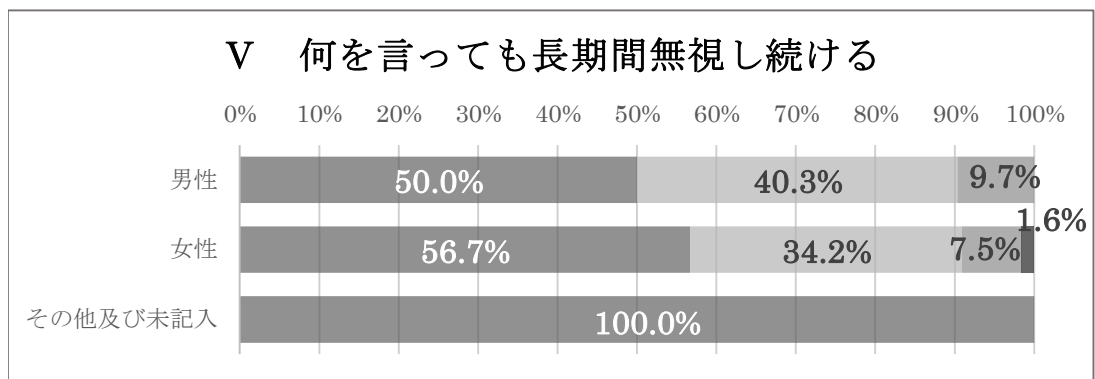
項 目		回 答		
I	平手で打つ	①	②	③
II	身体を傷つける可能性のある物でなぐる	①	②	③
III	なぐるふりをして、おどす	①	②	③
IV	いやがっているのに性的な行為を強要する	①	②	③
V	何を言っても長期間無視し続ける	①	②	③
VI	交友関係や電話を細かく監視する	①	②	③
VII	「役立たず」など、人格を否定するような暴言を吐く	①	②	③
VIII	大声でどなる	①	②	③



- ・全ての項目で半数以上の方が「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答しています。
 V～VI、VIIIの精神的な暴力について認識している割合が低くなっています。全体的に、前年度と比べて横ばいとなっています。

項目別





- 男女間の認識の差については、「III なぐるふりをして、おどす」「VI 交友関係や電話を細かく監視する」という行為が「どんな場合でも暴力にあたると思う」と認識する女性の割合がそれぞれ 15.4%、16.5%男性より高い結果となっています。
- また、「V 何を言っても長期間無視し続ける」「VI 交友関係や電話を細かく監視する」「VIII 大声でどなる」という精神的な行為は「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」と認識している割合が男女ともに約 25%以上と高くなっています。

問3：あなたがワーク・ライフ・バランスを実現するために心掛けていることや、実践したらよいと思うことがありましたらご自由にお書きください

20代女性（5件）

- 労働者側から実現するのは難しく、転職などの選択肢しかないのではないかと思います。よって、企業側が働き方改革を行うことが実現できたらいいのに、と思いました。
- なるべくできる家事はやりたいと思っています。投げやりにやらないようにし、調和を図っていこうとは考えています。
- 休む時はきちんと休むことを心掛けること。仕事と遊びの切り替えをしっかりとすること。
- 睡眠時間の確保。大小様々なリフレッシュ方法を見つけておく。
- もっと学生の時に、ちゃんと学習できる機会があれば良いと思います。

20代男性（2件）

- 休日はしっかり休む。
- 残業の少ない、又はない職場の選択。外に出て、人と交流する。+趣味を見つける。

30代女性（10件）

- I don't think that work should cause so much stress that you cannot enjoy your life. Working long hours and needing to commute for a long time creates a negative attitude towards work. Companies should be flexible to allow for their employees different lifestyles and family situations. （私は、仕事が生活を楽しめなくなるほど多くのストレスを引き起こすとは思わない。長時間労働と長時間通勤が、仕事に対するネガティブな考え方を生み出す。会社は社員の異なるライフスタイルや家庭の在り方を、柔軟に認めるべきである。）
- 定時退社。
- 夕飯までに家に帰る。やりたくない事は無理にやらない。個人で実現するには無理があるので、会社の理解と奨励が必要不可欠だと思う。定時で上がる。有給休暇の消化。うちの会社では最近時間で有給を取得できるようになったが、制度だけできても使えなければ意味がない。
- 仕事が終わったら、家族のことだけ考えるようにしている。
- 体調を壊しているのでまずは体を整えてから考えていきたい。
- 離婚後、実家から独立し自ら世帯主になったきっかけで、ワーク・ライフ・バランスを考えるようになりました。
- 子どもが産まれたが、職場と調整して、時短勤務を組んだり、夫との時間も作れるよう、夫の定休日に合わせてシフトを組んでもらうなどしている。
- 自分が心掛けている事は、自分がどんな環境にいても、心を穏やかでいられる環境に身を置くようにすることです。自分が、できる範囲の事をしています。小さな事かもしれませんが、自分が住む家の中をキレイに掃除したり、子どもや同居人に健康でいてもらいたいので、ご飯を作ること、お花を飾ったり、周囲の人たちと仲良くしたり協力すること。町内会にも出来る範囲で参加すること。自分で自分を大切に、息抜きをしたり、自律神経に気を配る。社会、世界、自分の身の周りの全体像を見るようにする。生きているだけで丸もうけだと思って、チャレンジ精神を持って行動したり、休んだり、自ら一人一人楽しみながら生きていければいいと思います。
- 家に仕事を持ち込まない。
- ほどよく手を抜く 休むときはしっかり休む、やるときはしっかりやる。

30代男性（7件）

- やりたいようにやればいいと思います。
- 休みの日は仕事のことは考えない。
- 特になし。
- 特にない。
- 様々な価値観が多様化している中、若年層は学校の教育等で新しい情報を学ぶ機会がありますが、年齢層が上がるにつれて学ぶ機会や言葉への理解が足りないのかなと思います。
- 仕事では自分の成長につながらない事（無駄な事、意味ない事）一切やらない。稼いだお金は、家族、恋人、真の友達など思い出になるような（みんなで共有できる）事に使う。
- 仕事にプライベートは持ち込まない。プライベートに仕事は持ち込まない。

40代女性（21件）

- どうしてもまだまだ育児、家事は、女性がやるものとの考えと、男性優位の社会だと思うので、その意識改革ももっと必要かと思いますが、男性は腕力ではどうしたって強いので、レディファースト的な考えがもっと根付くといいのかなと思ったりもします。
- 心掛けている事は、特にありませんが、子育て世代の人が子供と一緒に出勤できる、または、仕事場内に園がある様な会社が増えたらと思います。
- ワークライフバランスを実現するためには会社の理解が不可欠。
- 義務教育中の子供がいるので、ある程度融通がきく職場を探して働いています。口では、性別役割分担意識にとらわれないとは言え、実際は子供も母親がメインになっているのが現状。仕事を頑張れば家庭は回らない。旦那は仕事を頑張ってくれているので不満はないが。義務教育でもそれ以上でも、学生の子がいる家庭には、多様な生き方など考える余裕もなく。お金の事しか考えられないので、医療費や塾代など助成してほしい。
- ない。
- 家庭や子育てに影響しない程度に仕事はしたいと思います。
- その時どきで自分のやれることをやる。
- 仕事は苦手だが働いて収入を得なければ生活できないので、少しでも精神的に安定した状態で働けるように、得意なことを活かせる職業を選び、趣味を楽しんで、休日はしっかり休む。
- 現在、休日でも仕事を自宅で行っている。休日に仕事を持ち込まないようになればワークライフバランスは実現できる。
- 仕事が終わらなくても…次の日に。と思うようにしている（周りに迷惑がかからない前提）。
- ホワイト企業を選ぶ。
- 残業をしないようにすることを心掛けています。子育てをしているので自分の時間を持つようにしている。
- 男性も家事を手伝う日常になってほしい。料理、洗濯、育児、掃除など。
- とりあえずしない。
- 何事も一人で抱え込まずに周囲と協力して進めていく。
- 女性の仕事、家事、育児とやるが多すぎるので、家族に協力して欲しい。
- 自身が一つの仕事にかかる時間を、できるだけ正確に把握し、時間内で業務を終えられるよう、優先順位や時間配分を考えるようにしています。
- 自分でできる事は率先してやる。相手に無理強いはしない。
- なし。
- 特になし。
- フリーランスで在宅の仕事をしている。

40代男性（2件）

- ワーク・ライフ・バランスという言葉を知らない。
- 働き方に対しての概念を捨てること。月1回以上の有給等休暇を強制的にでもとらせるよう会社が設定すること。働く時間帯を決められるようになること…など。

50代女性（8件）

- 今の人は子供を産んで直ぐに働きますがせめて3歳になるまでは親元で育てた方が良い。その為に男女ともに育休が取れやすくする社会にすべき。
- 残業しない工夫。職を選ぶ上でよく確認し、家庭生活に支障がないことを優先する。家族の環境の変化に応じて仕事を選んできた。
- 何事にも根を詰めすぎない、無理をしない。
- 出産前と出産後のワーク・ライフ・バランスの差がありすぎる。出産後に仕事・家事・子育てのバランスをよくするには職場、夫等の理解が不可欠である。女性ばかりに負担がありすぎて色々と難しい社会であると感じる。
- 働き続けること。収入があることで夫婦間のバランスをとること。夫に依存しないこと。
- 選択できる程の職種や条件がまだまだ少ないと思います。
- いつの時も女は不利です。男の脳に求めても無理だと知りました。職場保育がもっと広まれば、もう少し女性も働きやすくなるのでしょうか？
- 仕事が忙しすぎて自分の事、子供や家族の事を考える余裕がなくなるのは、自分も家族もストレスを抱えるのでなるべくリラックスしてコミュニケーション、笑顔、健康を重視しています。

50代男性（2件）

- 仕事の効率化をすすめ自分の時間を増やす。
- 年次休暇の完全取得。明日できることは明日にして、ムダな残業はしない。プライベートでは、仕事のことはなるべく考えない。

60代以上女性（17件）

- 高齢者でも社会から必要とされる機会や場所があると良いと思います。
- 仕事の仕方を職場と相談するようにしている、バランスが取れるよう職員の相談にのっている。
- 自身のメンタルが安定していることが一番だと思うので人間関係が円満だといっています。
- 体が調子の悪い時、用事のある時は、家事をしてほしいと思います。
- 家庭の事と仕事をしていた時は、両方とも無理をしない程度に過ごしていた気がします。今後振り返ると、忙しい中にも充実してたと思います。
- 夫婦の協力。
- 広報をいつも見て、仕事のない日に、参加できることがないか、チェックしています。
- 自己主張するより、相手の言う事を良く聞く。
- 私は男女共同参画、バランス、LGBT、とは知りませんでした、説明を聞き判りました。でも自分なりにはっきりしてきた自分が有ります。子育ても職場でも一生懸命に人の上に立ち、町内の仕事、連町の職務もまっとうし、札幌で自治推興も受けましたし、主人も又あらゆるボランティア、札幌、小樽、石狩と勤め二人共勤めてきましたので、60～70才まで出来ました。一部不満も有りましたが今ではお互い年を重ね子供達も良く私の自慢の息子達で

す。良く記事、事件を耳にしますがお気の毒に思う日々です。共同参画、ライフバランス、LGBT、DV 絶対反発を感じます。取り留めのない文章で申し訳ございませんでした。失礼します。

- 家庭・仕事・町内会活動をバランスを取って行うようにしています。家庭のストレスを町内会活動で、町内会活動のストレスを仕事で、仕事のストレスを家庭で解消しています。今の職場は定年がほぼ無く、自分で日数を減らして楽しく働けてます。高齢者は長時間働けません。短時間、週に2~4日で働ける職場が増えるといいと思います。あと、若い方に町内会活動（運営）に参加していただきたいです。
- 家庭と仕事を両立させる為短時間も仕事に変えてみる。仕事の効率を上げる為仕事の内容に工夫してみる。
- 性別、他にとらわれず、本当の意味での個々を重んずる。
- 子育て中の専業主婦であっても子供と離れて過ごせる時間があると良い。短時間でも預けられる施設があると良い。また、男性は育休が取れやすい職場であってほしい。
- お互いの理解が必要。
- しなければならぬ事をテキパキと片付けてから、好きな事をゆっくりと楽しむ。
- 「男と女」とか「妻と夫」の従来からの役割にとらわれず誰もが家事ができ、仕事もできるように小さい時から訓練（練習や学習）をする。
- 特になし。

60代以上男性（7件）

- ライフ（私にとっては家庭）を優先していきたい。若いころはイケイケでしたが。
- 一番重要（難しい）のは、「子育て中の世代」の在り方だと考える。女性はその性の特性から、「育児」という家族形成の根幹となるものから逃れることは極めて困難であると思われるからである。
- なし。
- 無理をせず、心にゆとりを持ち事に当たる。自分を大切にし人には優しく和を持って。
- お互い仕事を離れている状況で、リスペクトが大事である。一言で「仕事と生活の調和」は難しく、男は仕事をして家族を守っているとの考えを改め、男も女性の分野にどんどん入っていくことと思う。その根底は昔ながらの男尊女卑があり、この考え方を捨てることである。
- 楽しいと思えること実践し、ストレスを溜めないよう心掛ける。
- 職務に関して、その職責範囲を常に意識すること。

問 6：あなたが日ごろ感じている男女平等や男女共同参画についてのお考えやご意見がありましたらご自由にお書きください

20 代女性 (3 件)

- 最近 SNS 上で「弱者男性」という言葉が流行り、日本は男尊女卑ではなく女尊男卑であるといった主張がなされるようになりました。これに対して女性側は激しく反論し、男性もまた反論するなど男女間の対立が深まり、お互いがお互いの性について嫌悪感を生む状況になってしまっているように思えます。韓国ではすでに（徴兵が男性のみなことも影響していますが）男女の溝が社会問題になっているのが現状です。女性側としては性暴力であったり、育児に対する無理解・収入格差や出世格差が男性を敵とみなす要因になるのだろうし、男性側としては痴漢の冤罪・パパ活などでお金を稼ぐ女性への嫌悪感・昨今の急激な女性を支援しようとする活動に対する羨望及び嫌悪感などが女性を敵とみなす要因になるのだろうと推測できます。しかしながら、両性がお互いを敵とみなす状況は何の幸せも生みません。お互いに対する相互理解・歩み寄りを促進するような施策があればいいのに、と思います。同じ人間という種族ではあるにしろ、男性と女性はそもそも身体や脳のつくりから違う生き物であり、それにより体験する経験・実感も違うため、教育や相互理解の努力なしにお互いの気持ちをわかりあうことは難しいのではないかと最近の論争を見ていて思うようになりました。
- “男女平等”と唱えているとはいえ、今現状も男が優位に立ってしまうことも多くあるのが現状だと思います。逆に女の方のみに保証が多いこともあるかもしれません。男女が平等になるよう、より“妊娠”や“子育て”に優しい世の中・理解がある世の中になるべきだと思います。
- 上の世代との意識の差を感じるのでここ数十年で大きく進歩が見られるのだと思いますが、まだまだ女性の政界進出は進んでおらず、それが更なる男女の機会均等の進展を妨げていると思います。

20 代男性 (1 件)

- 給与の平等化。男性の育児休暇推進。

30 代女性 (9 件)

- There should be respect for everyone in your relationship and in the community. Woman and men should be treated equally in society. At work, it should not be the default for women to clean or prepare drinks. At home, mothers and fathers should share cooking and cleaning and taking care of children equally. (自分と人間関係のある人やコミュニティに属する人全員に配慮をすべきだ。仕事においては、女性が掃除やお茶くみをするのを一般化すべきではない。家庭においては、母親と父親は料理や掃除、子育てを平等に分担すべきだ。)
- 身体の仕組みの違いから仕方のない事と男女平等という言葉に無理を感じる。女性が子供を産める年齢にリミットがあるにも関わらず、仕事と育児の両立は難しい。産む前から職場の反応や自身の身の振り方、家を維持するお金など考えることが多くて、子供を欲しいと思っても産もうとは思えない。親会社は男女参画とか言いつつ子会社にはその恩恵はなく、ISO

などの制度ばかり取得する。女性の管理職数は僅か 5%もない。子供に熱が出たら、共働きにも関わらず結局呼び出されるのは母親。行政には是非、手軽な料金で土日祝日でも預けられる託児所やシッターを斡旋して欲しい。病児を預けられる場所も欲しい。選択的夫婦別姓や同性婚でも養子を育てられたり、家族の在り方はもっと自由で良いと思う。

- 私の年代でも、家のことをやらない、できない男性が多い。女性が外で仕事をしはじめても、女性にばかり負担がかかる。子どもの頃から、教育がもっと積極的に、考え方を教えて教えていかないと、まだまだ日本は平等にはほど遠いと考えています。
- 男女平等が大切と言われているが、女性の特徴（生理とか）があるため、仕事面でも全て不利だと思う。
- 男性の多い会社では、まだまだ女は家のこと優先という考えが根強く、育児や介護などマンパワーが必要な時にも休みを取りづらい環境だと思う。妻として母として力を貸してほしい時にも会社を休める状況でないために力を借りられないのが現状。もっと行政の制度を整えて女性ばかりが家庭での負担を強いられないようにしてほしい（国が悪いと思っています）。
- 特にありません。
- 女性の場合どうしても子育てをすることにより、仕事面でのキャリアアップが難しくなってくると思うので、託児所を設けた資格取得の場などが増えると良いと感じる。
- 「男は仕事、女は家事・育児」の固定的な性別役割分担意識にとらわれている人も会社も多く、とても根深い価値観だと思っています。自分の先人たちから、小さい頃からすり込まれているし、社会もそういう環境の為、自分の娘（小 6）を育てていくにしても、子育てに合わせて、自分も転職を繰り返したり、家庭と仕事を両立するのはとても大変です。外国のように、休日と収入が増えて、男性も家事と育児に積極的に取り組んで頂ける環境が嬉しいです。皆の心が常に穏やかであるのがいいです。
- 男女平等は確かに理想的だとは思いますが、完全男女平等は難しいだろうと思います。ですが長い時間をかけて、少しでも差が少なくなればいいなと思います。

30代男性（8件）

- 男女平等って言ってる時点で平等じゃないと思う。
- 男女平等の精神は理想的ではありますが、現実では中々そうならない場面も多い。また女性の社会進出が要因と言われている問題もあるため、まだまだ本当の意味での男女平等、男女共同参画は課題が山積みなのではないかと思う。
- 特になし。
- 特にない。
- 男女共同参画社会が提唱されて 20 年以上経過し、考え方としては浸透しているとは思いますが、まだまだ表面上の周知なのかなと思います。職場や地域活動の場での風通しをもっと良くしていかないと、こうした考え方は定着しないのではないかと考えています。また男女平等となっていますが、女性を守る団体や組織の数に対して、男性の人権等を守る、考える機会が少ないのは少しおかしいのではと思います。
- 小さな事にありがたみを感じれば、（人間すべて）いいなと思う。
- 男女平等を目指すのは理解しているが上の世代のツケを今払っている感じがする。現在女性の方が色々優遇されていると思う。

- 男は仕事中心、女は家庭中心という習慣・しきたり、企業中心的な考え方や固定観念を社会全体で捨て去り、男女ではなく個々人としてワークライフバランスが保てるよう、国全体でサポートしていく仕組みを作っていくことが男女差別を減らす一つとして大切だと感じる。

40代女性（16件）

- 男性は腕力で強い分、レディファーストであって欲しいと常々、思います。女性も常に自信を持って、心を強くしていかないとならないとは思いますが。
- 女性でも、職種によって見下されているなあと感じることが、まだまだあるという事が、知り合いと話しててあると言う事を感じました。男性の職種柄、性的に嫌な思いをさせられたりと報道されてましたが、早くそういう目で見られず、ちゃんと罰せられる処置を取られたり、働きやすい環境が、整えられたらと感じています。
- イクメンという言葉がある時点で男女共同参画が進められるとは思えない。女の人も男の人も女が家事をやって当たり前、男が養って当たり前という考えを捨てなければ、共同参画というのは成り立たないし、そもそもそういう時代だったのを変えるのは容易ではないから、自分たちより下の世代に期待したい。
- 特に期待していない。期待できるような、地域になってほしい。
- 完全なる平等は無理だと思う。
- 社会的にどうなのかはなかなか考えが及びませんが、家庭内で女性がやるべきだという思い込みが多い事柄がまだまだ多いと思います。女性も働いているのに、家庭生活の中でもやらなければいけないことが多いので、結局仕事をセーブする、または仕事しない、社会に出られないという状況が生まれる事もあると思います。まずは家庭内での男女平等が大事ではないかと思います。
- 私の夫も家事、育児は女がするものと思っていて、その考えは変わらない。不満はあるがあきらめていて、夫に頼っても無駄だと思っている。
- 自分は物心ついた頃から性別に違和感を強く感じており（女性脳ではないのは確かだが男性になりたいわけでもなく）性別なんてものは不必要だと思っている。生物として身体づくりに違いがあることを変えることが出来ないのが厄介だが、せめて《暮らしの全てにおいて男女の差や違いを感じる必要の無い生活・社会になれば楽になれるのになあ》と考えて育ってきた。石狩市でそのような暮らしが実現できるのであれば、一生この地で暮らしていきます。また、DV被害経験があります。暴力だけでなく《長時間の無視や嫌がらせなどの精神的DV・金銭的DV》も取り締まる術が必要。被害者が冷静かつ論理的に説明をして理解を求めたとて聞く耳を持つような相手ではないのだし、そのような人間は裏表があり外では猫をかぶって周囲の評判も良いので、いざ関わってから気付いてももう逃げることもできず、周囲にも信じてもらえない状態でした。皆あちらの言い分を真に受けてこちらが悪いとさえ言ってきます。証拠さえ残せば近付くのを禁止できるなどの厳重な処置で守ってほしかったです。※ようやく離婚できましたが子どもの父親ではあるのでそれを理由にした監視や干渉が続いており滅入っています。
- 社会での女性軽視が多すぎる。例：女性は育児をするもの。
- 子育てをしているので正社員で働くことが難しい。夫も休みが取れるような社会になってほしい。

- 誰かを尊重して誰かが困るような事にならないでほしい。みんなが少しずつ譲れるといいと思う。
- 共働きでも、やはり家事は女性が多く負担する社会であり変わっていないように感じます。
- 性別に関係なく、何事にも取り組める環境作りが大切ではないか。
- 日本はまだ男尊女卑が残っていると思う。古くさい考え方が残っており、女性が正社員として社会進出するには難しい世の中です。
- 男と女は決して平等ではないと思っています。お互いを尊重し、足りない部分を補っていくことが大切なのかなと思います。
- 私くらいの年代はあまりなじみのない言葉ですので、もっと発信してはどうでしょうか？

40代男性（5件）

- 私の職場は既に女性の数が男性より多い割合になっています。そもそも、「男女平等や男女共同参画」という言葉を持ち出すこと自体、差別的ではないでしょうか。そして、なぜ「男女」なのでしょう。「女男」も可能性としてありえます。また、多様性の時代に「男」「女」という区別すること自体、愚問に思います。「男女平等や男女共同参画」と言いますが、何を持ってこのように言っているのでしょうか。かつては「男性社会」であったため、女性も積極的に社会に参加することで性別のバランスが取れた社会を目指すということなのでしょう。そういう偏見的な視点こそが社会を崩している気がします。このようなアンケート自体、何の意味を持つのか、理解に苦しみます。「男女平等」と言いますが、なぜトイレやお風呂はいまだに分かれているのでしょうか。それほどに「平等」というのであれば、分ける必要はないのではないのでしょうか。生物学的範疇と社会学的範疇の区分は違うという主張に基づいているのでしょうか。私には全く持って理解できません。
- 男性も職場で育休が取れるようになった。昔なら考えられない。時代に合っていると思う。
- 男性は女性を、女性は男性をお互いに認め合う存在となることで平等という言葉は活きると思うが、意味をはきちがえている人が多数いる。世の中で（日本で）の生活は苦しいので、もっと協力していかなければ、国として成立しなくなるという不安がある。
- 仕事や役職についての男女平等は昔に比べたら進んでいるとは思う。一方で伝統や文化は守ってほしい。
- 互いを思いやる気持ちと相手を尊重する気持ちを持ち、相方の話し合いにより同じ方向を向いていけば、良いと思う。長年に亘り、良い関係を築けていない場合、第三者機関が介入する必要があると思う。

50代女性（6件）

- 男女は、そもそも身体づくりが同じではないので、あまり男女平等にこだわりすぎると、どちらにも不利益が生じるのではないかと思います。
- 日本はまだまだ男社会で、そんな男性ばかりの場で話し合ったとしても、男女共同参画の実現は難しいのではないかと思います。
- 女性が出産後もものびのび働いていける事が理想だけど、現実には忙しく心の余裕もなくなってしまふ。そういう状況を理解し助けてくれるような社会（家族・職場・その周りにいる人・市や国）になってほしいと思います。

- 男女平等を主張するのは、女性側からが多いように思いますが、体格、体力面での現実的な差を埋めていくのは少し厳しいように思います。
- 本職を持っていて、元の職場に戻れて同等であっても、子育てママは、精神的に平等ではありません。女性って大変だなと、歳とって実感させられました。毎日の時給も給料も割に合いませんね。
- これからの時代は男性優位ではなく、女性ももっと仕事で上にあがって当然。家の家事も夫がもっと協力するべき。男性の知識不足も大きいと思う。

50代男性（6件）

- 「男女は平等である」と言うことに異論は持ちませんが、その前に男であれ女であれ、その個人が持つ「能力」を正しく評価すべきである。簡単に言えば、「人間としての評価」を、性にとらわれず正しく評価すべきである。
- LGBTは思想が片寄りすぎていて害悪ですよ。LGBTは昔からいる同性愛者の方々を攻撃していますし。
- 「LGBT」法は最初から反対！！
- 男女というカテゴリーがだんだん必要なくなることが多くなるかもしれない。様々な考えが理解できることや社会になればいいと思う。
- 日本は遅れている。
- 私は、男女平等に関しては、絶対ないと思います。男と女は根本的に違うからです。

60代以上女性（18件）

- 日本はまだまだ職場家庭において男性社会だと思います。社会の仕組みや個々の役割分担意識を変える必要があると強く感じます。
- お互いの人格を尊重することだと思います。
- 昭和生まれです。時代とともに変わってくるのかと思います。
- 年代の差はあると思いますが、昔は言葉の暴力は我慢の範囲内と自分の中でありましたが、現在は暴力として扱うことです。
- まだまだ男社会だなと感じる事はありますが、これからは性別にとらわれない社会になって行くのでは、と期待しています。
- 男女平等という言葉でも、やはり職場では、今でも女性はお茶くみとか、家庭を持つと転勤は無理、小さい子供さんがいると、保育所の近くにないと時間迄に迎えに行けない等、今もこの様な事が、職場で有るのでしょうか？私も石狩市から札幌迄通勤していて、保育所へ迎えに行くのにバスに乗り遅れ、途中迄タクシーに乗り、やっとバスに乗れたことを思い出しました（笑）。
- 今は共働きが普通になってきているので、お互いを尊重しあえばよいと思います。
- 若い時は、楽しかったが、年と共に、出不精。
- もちろん男性は仕事（生活の為）。私は子育てしている期間は、学校の役割をこなし、高学年になった時は、町内、アルバイト、など自分の意志で事務、経理、調理をまかせ60才迄勤めました。夫、子供にも支えられ社会貢献が出来ましたこと、自分自身良く出来たと思っております。

- 特になし。
- 男女平等という言葉を使う事が男女を分けているのではないか？人として平等というべきでは？男女共同参画とってただ人数合わせでは意味が無いと思う。人によって特色が違いますよね。
- 男性・女性と言うのじゃなく1人の人間としてイメージだけにとらわれず個性や能力を十分発揮できる豊かな社会になったらいいと思う。
- 私の友人には LGBT の友人がいます。私は普通に友人として彼女たちを尊重しています。
- 家庭での話し合い、また小学校から専門的な知識をもった人が指導にあたってほしい。
- 稼ぎ先は、出前をとるのは男性の分のみ、家事は女性の仕事、男性はお酒を飲むのが仕事。男性が借金や浮気をするのは嫁が至らないから。徹底して男尊女卑、これをおかしいと発言したのは私だけ。20年我慢して離婚しました。
- 「男女共同参画」という言葉が出てからもう何十年も過ぎているのに変わっていないと思う。
- 町内などで草ひきなどあれば以前はしていました。今はありません。
- 特になし。

60代以上男性（9件）

- 結婚してから40年ほどなりますがその間、20年位妻も家計のために働いてくれています。よく何万円の壁とかが話題になりますが妻には全く無視して良いと昔から言ってきました。勤務先には迷惑掛けてはいけません。
- 「男女は平等である」と言うことに異論は持ちませんが、その前に男であれ女であれ、その個々人が持つ「能力」を正しく評価すべきである。簡単に言えば、「人間としての価値」を、性にとらわれず正しく評価すべきである。
- ある程度の男女平等は必要です。
- 昔と違い、現在の女性は侮るなかれと考えます。優秀な人が私の周りにもおり、見習う事多く、男性では出来ない発想が多々あると感じています。
- 先ず市議会での女性進出は少しずつ増えているが、質問内容等は、女性ならではの意見も多いが職員からして甘くみている点が多く女性視点に立った答弁・施策の推進をもっと重視すべきと感じられる。
- 年齢・性別に関係なく平等に接したい。
- 男女性別の違いにより考え方も違って当然な部分もある。思いやり、相手を理解することも大切だと思います。
- 仕事上にしても生活上にしても、性別は関係ない考える。
- 男・女と区別するのではなく、人間としてすべて平等であると思う。